

# 第43回「議員と語りかい」報告書

総務環境常任委員会 (No.1)

開催日	令和 5年 11月 2日 18時 00分 ~ 19時 30分		
開催場所	議会棟4階 第3・4委員会室		
団体名	個人参加	参加人員	9人 (男 4人:女 5人)
出席議員	宮田 竜二、今吉 直樹、松下 太葵、藤田 直仁、松枝 正浩、 前島 広紀、有村 隆志、仮屋 国治、宮内 博		
役割分担	班 長 (宮田 竜二) 副班長 (今吉 直樹) 記録係 (松下 太葵)		
テーマ及び具 体的な内容	「多文化共生のまちづくり」		

意見 交 換 で の 主 な 話 題 等	◆は参加者の発言    ◇は議員の発言
	<p>◆外国籍の住民も税金を払っているが恩恵を受けているか疑問だ。ちゃんと平等に市民サービスを受けられるようなシステムを作ってほしい。</p> <p>◆バスが運行されているのを知ることが出来ずに、しばらく身動きが取れなかった。</p> <p>◆外国籍の住民で運転免許を取得したい場合、鹿児島県は試験を日本語で受験しなければならない。宮崎県はベトナム語で受験できる。</p> <p>◇移動問題の解決策として「きりしまMワゴン」は期待できるが、まだ実証実験段階である。現時点では、外国語対応していない。国分隼人の中心市街地エリアのみで運航日も限定的である。</p> <p>◇外国籍の住民が使いやすい地域交通を構築したい。</p> <p>◆国際交流協会があると聞いたことがあるが、何をやっているのか分からない。もっと、外国籍の住民を呼んで交流を行うような場を作ってもらえると助かる。</p>

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な話題等

◇国際交流協会では、外国籍の住民向けのイベントを開催している。開催曜日の工夫などを行う必要を感じた。

◆技能実習生として日本に来た外国籍の住民は3年間仕事を変えることができない。仕事を辞めて失踪するなどの社会問題になっている。日本に来てよかったと思える制度に改善をしてほしい。3年間が終わって母国に帰ることになる。

◇外国籍の住民の対応は、市役所の市民活動推進課が担っている。また、事業所の実態調査となると商工振興課が担当になる。現時点では、霧島市の考え方としては、日本人に向けた行政サービスが主になっているように感じ、改善する点はあると思う。

◆外国籍の住民が図書館を利用する際に、ベトナム語で日本語が勉強できる書籍があればいいと感じる。

◆外国籍の住民のキャリアアップを図ることができれば給料も上がる。さらに、大学に入る人も出てきたりすると、素晴らしいことである。積極的に支援する企業や学校もある。日本で創業したいという夢を持つこともある。そのまま日本で結婚して永住することもある。そういう輪が本当の意味の国際交流である。

◆霧島市の国際交流はもう少し視点を変えて取り組んでほしい。日本人だけでなく、外国籍の住民も含めて、霧島を活性化していくという視点が大事である。

◇外国籍の住民のコミュニティを作ることができれば、情報共有や意見の集約ができ、行政も対応しやすい状況が生まれるのではないかと思う。そのコミュニティの中でキーマンの発掘や育成につながると思う。